

電子黒板を活用した授業の展開

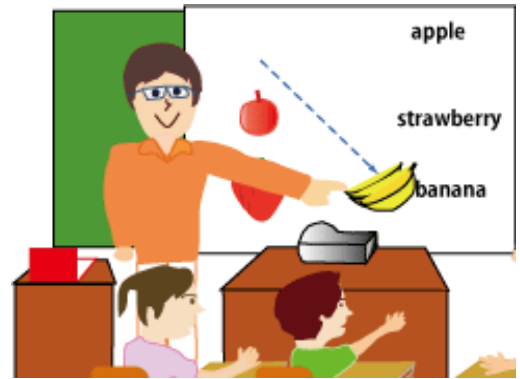
【吉川市教育委員会】

- 1 学校・学年・教科 中学校・全学年・外国語（英語）
- 2 ねらい 電子黒板の特性を生かし、授業におけるさまざまな場面で生徒の理解を支援する
- 3 取組内容

(1)効果的な教材提示をねらって

授業の中で、中心的な発問や資料を提示するのに最適なタイミングというものがあります。良い提示で、さらに学習効果は上がります。かつては模造紙に描いた教材をガサゴソと黒板に磁石で貼り付けたり、CDデッキの再生ボタンを押して効果音を流したり・・・など、ひと手間かかっていたことが、電子黒板なら簡単なタッチパネル操作によって一瞬のうちに、しかも同時に提示することができます。こうした‘授業のリズム’はとても大切です。

（画面上のオブジェクトを指先で操作することにより、生徒の視線を集めながら集中力を高めることが可能になるからです。）



(2) 新文型の導入やパターン・プラクティス（文型練習）の補助に

「教師の英文を聞き、提示した画像によるヒントをもとに、どのような意味かを推測する」「目標文の活用法を理解する」「提示した画面上で、主語や場所を変えて、口頭で文型練習をする」「その際、

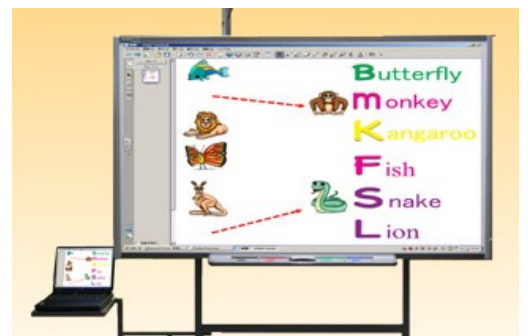
主語が単数か複数かを把握させ、be 動詞の活用練習をする」など、使い次第で多様な用途や場面に活躍してくれるのが電子黒板です。

（視覚と聴覚の相互作用による構文の理解をきわめて容易にします。オブジェクトを生徒に直接操作させることが可能ですから、ヒアリングで得た情報を簡単に再現させることもできます。何よりもデジタルデータをUSBひとつで持ち歩ける手軽さもいいですね。一度使い始めると、あまりの便利さにもう手放せなくなります。）



電子黒板の効果

従来の黒板を「2次元的」と喩えたら、電子黒板はまさしく「3次元的」な活用ができます。画像や映像を音声も交えて使えるのは、英語科のような文字と発音の組み合わせで学習する教科にとってはまさに「魔法の教具」です。パソコンソフトの進化とともに、こうした立体的な可能性も無限に広がっていくことでしょう。



(3) 実際の授業における活用例（中学2年、6月）

英語学習も2年生になると、かなり実用的な会話の場面が登場してきます。レッスン3では「初めて飛行機に乗る」という設定で、生きた英会話を学ぶこととなります。「機内アナウンス」や「入国カードの書き方」、さらには「入国審査」など、おそらく海外に出かける際に遭遇するであろうさまざまな場面。ぜひともこうした実践的な学習を通じて「表現の能力（コミュニケーション能力）」を育てていきたいものです。そこで、電子黒板を利用して「スキット(寸劇)」を演じさせることにしました。自動スライドショー機能で空港のイメージを演出したり、実際に使われている「非常時の避難手順ビデオ」を見せたり等、なるべくリアルなシミュレーション活動を展開します。音声と映像を手軽に操れるのが利点です。

演技を成功させるためにも、基本的な文例はきちんと覚えさせなければなりません。こんな時にも重宝するのが電子黒板です。右はパワーポイントで提示した新出単語や文型練習のスライドの一部です。既存のフラッシュカードやピクチャー・チャートに比べて文字が大きく、絵を鮮明に映し出すことができます。重要事項についても、実にスムーズに確認することができました。また、音声と文字をつなげた後の音読活動では、発音やイントネーションへの意識を高め、自信を持って取り組ませることができました。まとまりのある英文を書いて正確に伝える力の向上につながり、書くことに対する意欲も高まったようです。ポイントとなる英文について、視覚的にアプローチすることで、苦手意識を抱く生徒も意欲的に活動に取り組む姿が多く見られるようになったからです。

さらに、意味のまとまりを確認しながら音読して英語の語順通りに意味を理解する活動でも、パワーポイントを活用しました。その結果、書き取りテストの正答率が高まり、書くことへの意欲につながりました。発展的な学びの活動で、意欲的に、かつ正確に表現する生徒が多く見られるようになったことが最大の効果です。



3 これからの課題

「電子黒板」が日本の教室でまだまだ普及していないのは、様々な複合的ジレンマがあるようです。パソコンの操作が面倒だ、絶対数が足りない、できれば固定した環境で使いたい、画面が反射して生徒には見えにくい等等。せつかく便利な電子黒板が「宝の持腐れ」にならないことを希望します。